

のう じ でん そう 農時電送

号外-NO. 2

台風第10号に備えて！

台風第10号は、日本海で温帯低気圧に変わる予定ですが、16日夜から17日にかけて暖かく湿った空気が北海道に流れ込むため、北海道地方では、大気の状態が不安定となり大雨となる見込みです。低い土地の浸水や土砂災害、河川の増水に十分に注意して下さい。

今後の台風情報等に十分注意し、次の事項を参考に事前の対策を実施して下さい。

第1 大雨対策

- 1 用排水路の草刈り及び水路内のゴミ上げを行い、水の流れを確保し、浸水、冠水の恐れがある水田では、排水口の解放や畦畔を切る等の排水対策を行う。
- 2 風雨が強くなってからの用水路の見回りは行わない。やむを得ない場合でも、夜間や単独での行動はしない。
- 3 ビニールハウス・農舎・畜舎・サイロ・飼料庫等は、屋根や壁の点検・補修を行い、風雨による被害を防止する。施設周辺に排水溝を掘り、土のうを積むなどにより施設への浸水を防ぐ。
- 4 浸水の被害が想定される貯蔵施設は、収穫物を浸水の危険がない場所に移動する。
- 5 堆肥場や尿溜に入った雨水が流出する恐れがある場合は、土盛りし、河川等への流出を防ぐ。

第2 ビニールハウス等農業施設の暴風雨対策

- 1 既設の防風網は点検整備を十分に行い、突風がおこりやすい場所には応急的に防風網の設置を行う。
- 2 ハウスバンドを固定するアンカー杭が浮き上がっていないか確かめ、修正しておく。
- 3 ハウスの筋かいは、緩んでいるところだけを締め付けると周囲の筋かいは緩むので、ハウス全体の筋かいは均等に締め付けられるように調節する。また、ハウス中央部に支柱を設置し暴風雨に対するハウス強度を高める。
- 4 ハウスの出入り口、天窗、側窓、換気扇及び側面のフィルム巻上げ部などの開口部が、きちんと締まるかチェックしておく。
- 5 ビニールフィルムが強く緊張するように、ハウスバンドをきつく締めておく。バンドレスの場合は、フィルムを均等に緊張すること

が難しく、強風でフィルムがバタつくとフィルムが破れやすくなるので、妻側端部及び適当な中間部に防風ネットを張り、バタつかないようにする。

- 6 被覆資材が破れ、風がハウス内に吹き込むとハウス内の圧力が非常に大きくなり、ハウス全体が大被害を受けるので、飛来物によるハウスの破損がないよう、ハウス周辺の飛散しやすいものを片付けておく。
- 7 ビニールハウス周辺の排水溝は、ハウスのすき床面より低く掘り下げ、ボイラーや移動できる機械類は可能な限り高所に移す。

第3 畜舎等施設の暴風雨対策

- 1 畜舎で保管中の生石灰が浸水で発熱し、火災にならないよう注意する。
- 2 草地ほ場等のロールベールやラップサイレージは、高く安定した所へ移動する。
- 3 氾濫する恐れのある河川周辺に放牧している牛は、目の届く放牧地や避難施設などの安全な所に誘導する。

第4 停電・断水対策

- 1 常備している懐中電灯の電池残量や、畜舎・施設などの小道具の置き場所を全員が確認し、また、畜舎内の清掃・整頓を徹底し、夜間停電での突発的な人身事故に備える。特に、畜舎では発電機の手配、自家発電機の試運転、発電能力と使用する施設・機械の必要電力の確認、給水タンクの手配をしておく。
- 2 酪農施設で停電した場合
 - (1) 停電で搾乳が不可能な場合、牛舎への出入りは必要最小限にし、牛に搾乳刺激を与えない。また、給水制限すると同時に濃厚飼料の給与は控える。
 - (2) 通電後、直ちに搾乳する。ただし、前搾りを行い凝固物（通称ブツ）の有無を確認し、罹患している場合は治療する。
 - (3) 牛の体調を確認して、異常牛はすみやかに獣医師の診察を受ける。
 - (4) ミルカーなど電気を動力源とする機械は、通電後正常に作動するか速やかに点検する。
 - (5) 停電中にバルククーラーで冷却中であった生乳は、速やかに集乳できるよう体制を整える。なお、出荷の際には、細菌数検査を実施する。